

4 全体考察

(1) 実技に関する調査から

《体力合計点から》

- 小学校の平均は、男女とも-0.5点未満で、「ほとんど差がない」結果であった。
- 小学校女子においては、平成21年度の本調査以降最高の得点であった。
- 中学校の平均は男子が-1.03点と「低く」、女子が-0.69点と「わずかに低い」結果であった。
- 中学校女子においては、小学校と同様、平成21年度の本調査以降最高の得点であった。
- 児童生徒の体力合計点は、小学校中学校男女ともに全国平均に達していないことから、体育・保健体育の授業を一層充実させるとともに、部活動の活性化や家庭や地域との連携を深め、生涯にわたって、運動やスポーツをしようとする意欲を高めることが必要である。

《実技調査から》

- T得点50以上の項目は、小学校においては男女ともに、50m走、立ち幅とび、ボール投げの3項目であった。
- 中学校では、男子が20mシャトルランの1項目、女子が持久走、20mシャトルラン、立ち幅とび、ボール投げの4項目であった。
- 新体力テストは、学校における体力・健康に関する指導の取組を評価する指標であることから、体力向上全体計画に基づいたPDCAサイクルを確立し、全教職員で指導の充実を図ることが必要である。
- 小学校では、男女ともに、長座体前屈は、2年連続T得点49以下であった。
- 中学校では、男子の上体起こし、50m走、男女の長座体前屈は2年連続で、T得点49以下であった。
- これらのことから、小中学校ともに、長座体前屈(柔軟性)に課題があるといえる。
- 新体力テストは、児童生徒がもっている力を正確に把握させるためには、真剣に、最後まで取り組ませることが大切である。そのためにも実施目的を理解させるとともに、全国や県の平均値や前年度の自分の記録等、目安となる目標を示すなど、事前の指導が大切である。

(2) 運動習慣等に関する調査から

《平日の運動実施時間から》

- 小学校では、月曜日から金曜日までの運動実施時間に全国との差はみられなかった。
- 中学校では、月曜日はわずかに長い、火曜日から金曜日までは短い結果であった。

《土日の運動実施時間から》

- 小学校では、女子においては大きな差はみられないが、男子においては、全国平均より土曜日で18分、日曜日で25分短い結果であった。
- 中学校では、男女とも土曜日は全国平均と差はないが、日曜日で男子で9分、女子で16分短い結果であった。

《1週間の総運動実施時間から》

- 小学校では、男子で42分、女子で11分と男子において短い結果であった。
- 中学校では、男女ともに30分程度短く、わずかに短い結果であった。
- 1週間の総運動時間の児童生徒の分布は、全校と同様の傾向で、中学校において、運動する者と運動しない者の2極化が明確となっている。
- 1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合は、前年度と比較すると減少しているが、そのうち中学校では、0分の生徒が男女とも65%を超えており課題である。

《クロス集計結果から》

- 小中学生の1週間の総運動実施時間と体力合計点の関係をみると、運動実施時間の長さに比例して、体力合計点の平均値も高くなっている。
- 小学校では、1週間に7時間以上運動する児童生徒の体力合計点の平均は、県の平均を上回っている。
- 中学校では、男子において、1週間に14時間以上運動する生徒の体力合計点は、県の平均を上回っている。また、女子においては、7時間以上運動する生徒の体力合計点は、県の平均を上回っている。

《運動やスポーツ、授業に対する意識から》

- 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男子でわずかに高く、女子では、ほとんど差がなかった。
- 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合を全国平均と比較すると、中学校男子で高く、女子では、ほとんど差がなかった。
- 小中学校ともに、前年度と比較すると「好き」と回答した割合が男女とも増加している。
- 体育の授業が「楽しい」と回答している児童の割合は、全国平均と比較すると男子でわずかに高かったが、女子ではほとんど差がなかった。
- 保健体育の授業が「楽しい」と回答している生徒の割合は、全国平均と比較すると女子でわずかに高かったが、男子ではほとんど差がなかった。
- 小中学校ともに、体育・保健体育の授業が「楽しい」と回答している児童生徒の体力合計点は、男女ともに県の平均点より高くなっていることから、児童生徒が「楽しい」と感じる体育・保健体育の授業の充実が望まれる。
- 体育の授業において目標が「提示されている」と回答している児童の割合は、全国平均と比較すると男子はほとんど差がなかったが、女子ではわずかに低かった。
- 保健体育において目標が「提示されている」と回答している生徒の割合は、全国平均と比較すると男女ともに低かった。
- 小学校、中学校ともに、体育・保健体育の授業において「目標が提示されている」と回答している児童生徒の体力合計点は、男女ともに県の平均点より高くなっている。このことから、「児童生徒に目標を明確に示し、学習の見通しを持たせ、自らが運動の課題の解決を目指す学習活動」を行えるような体育・保健体育の授業の充実が望まれる。

(3) 今後の取組について

《今後の方向性》

本県児童生徒の運動や体育・保健体育の授業に対する意識の高さについては、今後も継続しつつ、地域の様々な機関と連携したコンソーシアムにより、体力向上や運動習慣の形成に向けて、以下の取組を推進する。

《今後の取組》

◆ 学校の組織的な取組の推進を支援

- 各学校における「たくましい“かごしまっ子”」育成推進プランの作成、活用
- 中学校版「体力アップ！チャレンジかごしま」の開始
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析と活用促進
- 体力ナビの積極的活用と児童生徒一人一人への体力カードの作成
- 学校体育に関する学校訪問の実施(小学校4校, 中学校4校)
- たくましい“かごしまっ子”育成推進推進校(中学校)によるモデル的取組
- 「児童生徒の体力を正しく把握するための新体力テスト実施方法手引」(改訂版)の作成
- 「体力アップ！チャレンジかごしま」の継続実施

◆ たくましい“かごしまっ子”育成に向けた運動の楽しさを追求した授業、体育指導の工夫改善の支援

- 小中学校体育主任等研修会の実施
- 新任幼稚園教諭への「幼児期運動指針」についての研修
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校6校)による実践的研究及び研究公開
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校6校)への地域スポーツ人材の派遣
- かごしまの子ども体力向上プログラム(小学校版, 中・高等学校版)の活用促進
- 「学びの羅針盤」に基づいた共通実践

◆ 運動習慣の形成に向け、学校・家庭・地域が一体となった取組を促進

- 体力向上や運動習慣形成の重要性についての啓発資料の作成
- 地域スポーツ人材を活用した運動習慣育成教室(仮称)の実施
- 体力向上推進フォーラムの実施
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(第4期)研究公開による普及啓発

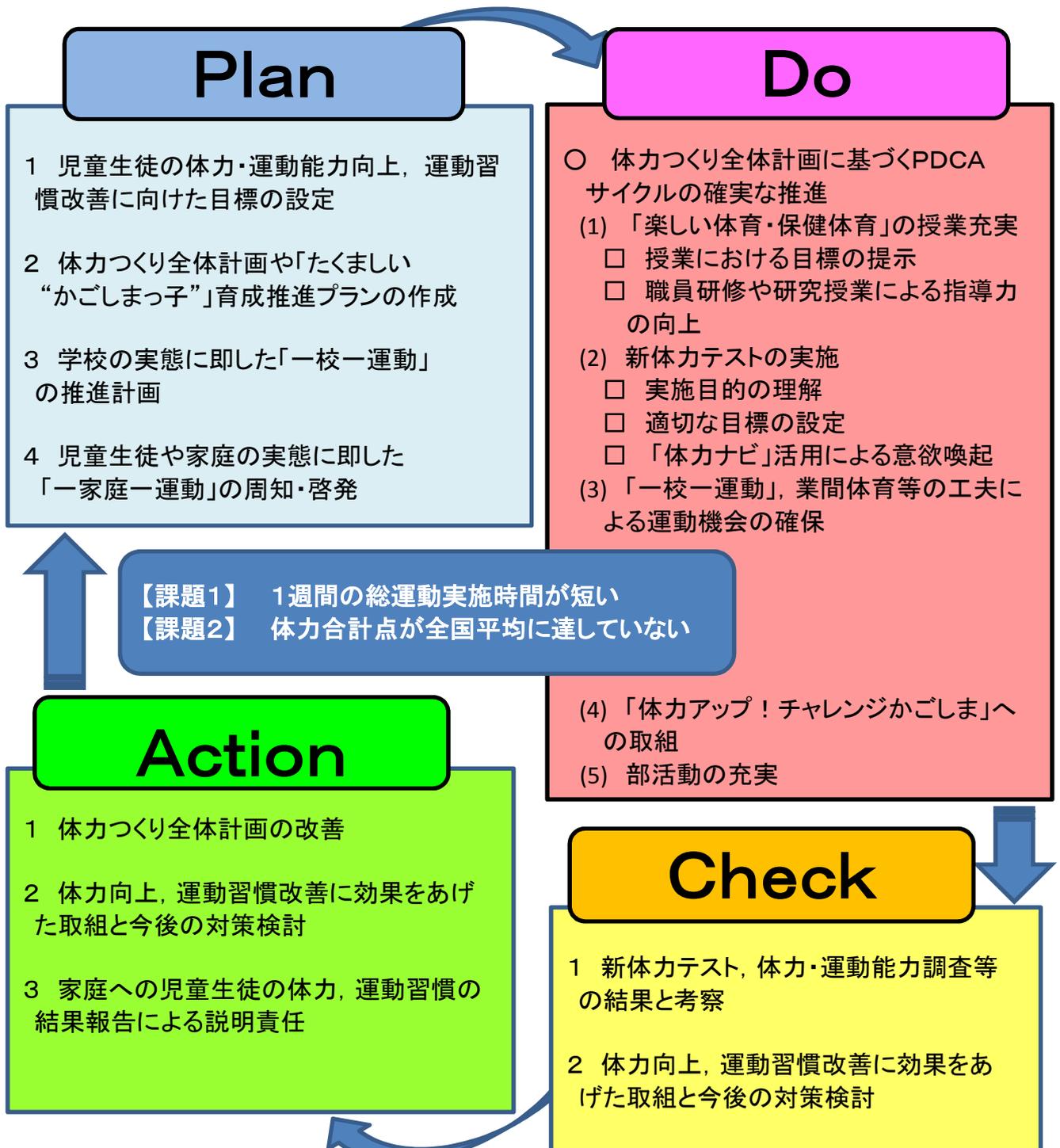
5 改善のポイント

たくましい“かごしまっ子”育成に向けた学校における 体力向上, 運動習慣改善のPDCAサイクル

県教育振興基本計画における数値目標達成を目指して

項目	24年度	25年度	26年度	28年度	30年度
運動習慣等調査における1日のスポーツ実施時間1時間以上の児童生徒の割合(小中)	64.9%	※53.3%	※57.8%	67%	70%
体力テストでの, 全国平均を100としたときの体力の数値(小中高)	96.5%	95.7%	97.5%	99%	100%

※ 平成25年度から, 「全国体力, 運動能力, 運動習慣等調査」の質問が変更になり1週間の運動時間合計を7で割った時間を基に算出



「たくましい“かごしまっ子”」育成推進プラン(平成27年度)

学 校 名	学校	校長名					生徒数	名			
		記載者名					学級数	学級			
前 年 度 運 動 実 施 時 間	累 計 時 間	男子				女子					
		平日	土曜日	日曜日	1週間	平日	土曜日	日曜日	1週間		
	全 国 平 均	分	分	分	分	分	分	分	分		
	本 校	分	分	分	分	分	分	分	分		
現 状 と 課 題											
運動時間確保プラン <small>(・いつ・どんな取組を・どのように)</small>		本年度運動実施時間目標値									
		男子				女子					
		平日	土曜日	日曜日	1週間	平日	土曜日	日曜日	1週間		
		分	分	分	分	分	分	分	分		
前 年 度 体 力 テ ス ト 結 果	総合評価	A	B	C	D	E	※少数第1位まで記入				
	全国総合評価	%	%	%	%	%	①はA及びBの割合を記入する。 ②はD及びEの割合を記入する。 ③は①―②の値を記入する。				
総 合 評 価 段 階 別 割 合	本校総合評価	%	%	%	%	%					
		①	%	②	%	③	%				
現 状 と 課 題											
体 力 テ ス ト 目 標 値	A 及 び B の 割 合					%	← 来年度の本校目標値を記入				
加 入 率 調 査	ス ポ ー ツ ク ラ ブ					%	スポーツクラブとは、民間又は地域スポーツクラブ等を示す。				
	運 動 部 活 動					%					
「チャレンジかごしま」申告状況	参加学級数÷全学級数×100 (前年度の実績)					%	参加学級数			学級	
《体力アップ「一校一運動」プラン》											
プ ラ ン 概 要	いつ	どんな取組を				どのように(頻度、回数等)					
	・いつ ・どんな取組を ・どのように										
体 力 向 上 の た め の 具 体 的 な 取 組 (本 年 度)	(1)保健体育の授業での創意ある工夫や取組										
	(2)休み時間、昼休み、放課後等における運動・スポーツ活動										
	(3)体育的・学校行事の実践										
	(4)体力テスト総合評価D及びEの生徒に対する体力向上対策										
	(5)その他(「一家庭一運動」、地域人材の活用、地域行事との連携も含む)										